

(2) 果 実

全体の動向と見通し

9月と10月の実績

(東京都中央卸売市場)

品目	区分	9月の取扱実績(計)				10月の旬別取扱実績							
						上旬				中旬			
		入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)
総数(国産果実計)		42,789	100	304	90	16,892	111	268	93	19,053	103	245	106
みかん類		5,990	113	343	79	5,869	127	245	102	8,288	114	186	104
りんご類		7,039	120	296	111	2,480	121	287	97	3,252	121	273	100
(つがる)		5,731	118	297	112	1,324	101	269	94	890	107	243	98
(千秋)		118	197	309	95	409	105	304	96	494	96	284	99
なし類		15,070	86	193	82	2,793	86	188	87	1,655	80	215	101
(西洋なし)		343	92	253	87	155	95	280	95	305	117	287	95
かき類		3,216	192	272	70	3,476	117	207	86	4,059	91	242	147
(平核無)		1	83	202	68	3	31	126	65	902	968	224	143
ぶどう類		4,098	87	569	95	907	97	578	90	658	83	578	93
(デラウエア)		321	64	525	108	18	72	561	100	10	56	496	99
いちご類		7	31	2,601	94	6	92	2,572	103	12	140	2,505	98
すいか類		947	94	90	61	64	79	172	93	49	67	236	134
メロン類		1,779	90	416	101	492	104	480	100	495	102	434	82
外国産果実総数		9,185	91	132	102	2,517	104	129	97	3,467	102	116	103

概況

秋果実は、西の「みかん」と東の「りんご」が双璧である。この2品目で果実全体の46%を占め、秋果実全体の販売ムードを決定づける。

本年のみかん入荷量は前年比5~10%減の見込み。品質は小玉傾向ながら、味が良いために人気があり、前年を上回る市況となった。りんごは玉伸びが良く、品質も良好とあって、前年比2割増の入荷量ながら、若干の値下げにとどまった。かきも食味が良いことから入荷増だが、前年並の価格を確保した。

しかし、和なしは豊水を中心に前年比1割増の入荷で、価格同2割安となった。西洋なしも前年を下回る入荷量ながら、前年を割る価格であった。アールスメロンも潤沢な入荷となり、業界筋からの引き合い弱く前年の価格を下回った。

おいしさなど内容の充実如何が相場にあらわれたという厳しい10月であった。

(11月の見通し)

(東京都中央卸売市場)

品目	区分	入荷量 (t)			キロ当たり単価 (円)			山形県産前年10月実績	
		前年実績	前年比 (%)	5年平均	前年実績	前年比 (%)	5年平均	前年入荷量	前年占有率 (%)
早生みかん		24,823	110	24,417	232	105	225		
りんご(ふじ)		4,664	115	4,923	300	97	284	1,930	41.4
なし(西洋なし)		1,480	90	1,111	251	100	338	1,273	86.0
かき(平核無)		3,935	100	3,722	190	110	214	773	19.6
ぶどう(巨峰)		163	80	163	908	105	911	18	11.2
メロン(パール)		1,084	100	1,134	694	100	784	9	0.9
いちご		621	100	754	2,024	100	1,911	15	2.3
くり		120	98	128	665	85	630		

概況

みかん、かき、りんごが3大品目で、果実全体の75%のシェアを占めるが、本県としては、りんごのふじが最盛期に入り、11月はふじ全体の40%を占めて第1位、ラ・フランスも10月後半から入荷して、11月はいよいよ最盛期、約90%のシェアを占め本県が独占する。フルーツ王国の魅力を飾るシーズンが到来する。

昨年は、主要果実が生産・入荷減となって、販売価格は基調高で推移した年次であった。反面、本県産ラ・フランスは生産・入荷増のために価格低迷を余儀なくされた。

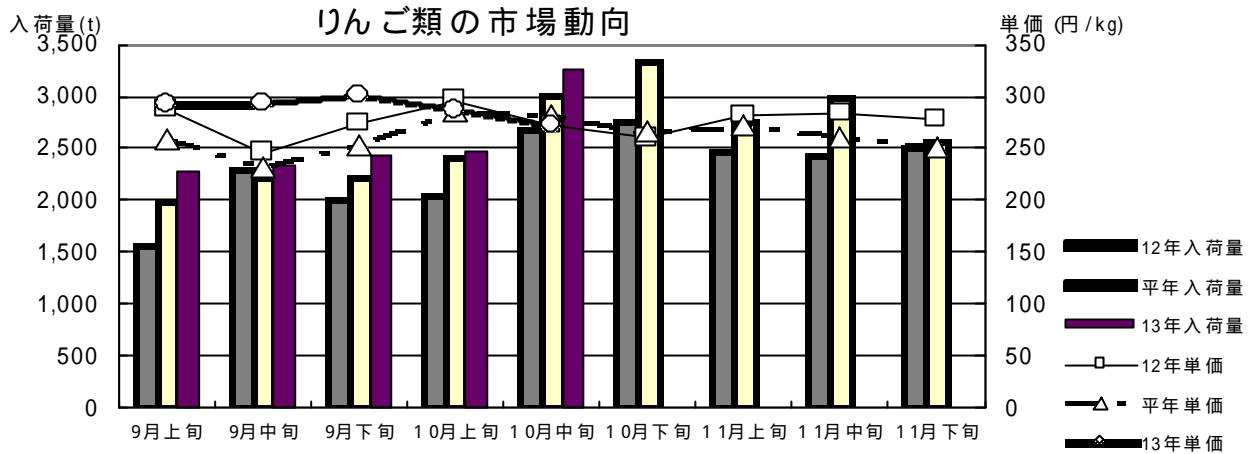
秋果実本番で、本年は果実全般に内容が充実し食味が良いとされているが、入荷量は順調潤沢と見られ、今後の販売は激戦が予想される。早め早めにセールスポイントを打ち出し、提案することが大切である。出荷情報も正確・迅速に。

有利販売というのは、「商品力」が最も大切だが、その商品力を裏切らない仕組み受け皿は出荷量と出荷体制、出荷情報で、これらが商品をしっかり支えることになる。これら3つの関係は、お互いに補完し合う関係であり、個々が単独に機能するわけではないから、これらの要因をガッチリ固めて販促活動に取り組みたい。

りんご

(1) 10月の販売状況

上旬	入荷量： 2,480 t (前年比 121)	価格： 287円 / kg (前年比 97)
中旬	入荷量： 3,252 t (前年比 121)	価格： 273円 / kg (前年比 100)



8月下旬から入荷したつがるは、着色と果肉のしまりが良好で「おいしい山形」にぴったりの高品質で好人気を持続した。続く千秋は前進気味に9月下旬から10月中旬まで入荷し、市場評価は良好であった。さらに、早生ふじ系統(紅花ふじに統一化の方向)と、品種が切り替わりながら入荷した。食味が良好であったために入荷量が増加したにもかかわらず販売価格は前年並で推移した。市場では、本県産に今年のような内容品質と中生品種の統一、または同一名称での出荷を望む声が強かった。

市場全体としては、9月は入荷量前年比2割増、販売価格同1割高。10月は、入荷量同2割増、前年並の販売価格で、市場の活況をりんごがリードした形であった。これは、何よりも品質と食味が良好であったためである。 東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。品目は、つがるやふじなどを含むりんご類。

(2) 11月の見通し

中生種も品質向上で市場評価向上！

入荷量
8,520 t
前年比 115%
平年比 102%

価格
272円 / kg
前年比 97%
平年比 104%

旬別相場予想推移
上旬 →
中旬 →
下旬 →

品目：りんご類

ふじを中心に当月の主産地は、全体の4割を占める山形と1/3を越える長野である。

本県の場合前年の不作入荷量減の2~3割増を見込んでいるが、平年比ではやや下回る模様。長野産は雹害等でばらつきがあり前年並の入荷量が見込まれる。

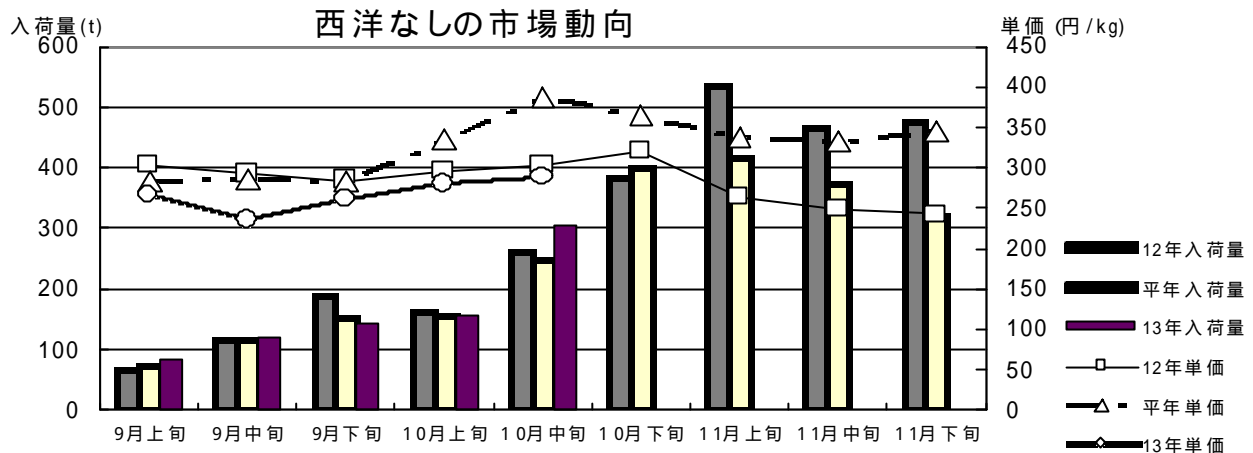
全体的には、不作だった前年を上回るけれど、平年比ではそれほど多くなく、品質面の仕上がりレベルが高いと見られることから、価格は堅調に推移するのではなかろうか。系統を中心に容器意匠の統一、品質格差、選果選別の高位平準化を心がけたい。

主な生産県の入荷見込み(11月)				作柄概況
県名	前年 入荷量(t)	前年シェア (%)	前年比入荷 見込(%)	
山形県	1,930	41.4%	120%	生育進度は前年より5日程度早めに推移しており、果実肥大も良好。扁平果が見られるものの、果実の肥大は良好。ふじは生育前進により10月下旬から出荷されている。
長野県	1,664	35.7%	100%	昨年より多いと見込まれたが、雹害等もあり最終的に前年並となる。出荷の進み具合は平年並。

西洋なし(ラ・フランス)

(1) 10月の販売状況

上旬	入荷量：	155 t (前年比 95)	価格：	280円 / kg (前年比 95)
中旬	入荷量：	305 t (前年比 117)	価格：	287円 / kg (前年比 94)



山形産は10月15日から出荷を開始し、5kg16玉が2,000円程度で取引されたが、なし類全般の基調安を受けて、値下がり演技を演じ苦戦の立ち上がりとなった。

市場担当者からは、基本的に市場到着後3~4日が「食べ頃」となる硬度で追熟、食味管理を徹底してほしい。消費者の認知度がまだまだ低い品目なので、消費宣伝に力をいれてほしい。などが望まれている。

序盤の食味とサービスが盛期の需要増につながる場合が多い。食べ頃と食べ方を説明し、試食してもらいながら販売したい。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。

西洋なしの集計値。

(2) 11月の見通し

需要に見合った計画販売を!

入荷量
1,330 t
前年比 90%
平年比 120%

価格
250円 / kg
前年比 100%
平年比 74%

旬別相場予想推移
上旬 →
中旬 →
下旬 →

品目：
西洋なし

10月中旬から山形産が市場を独占することになるので、時期別の需要を検討し、計画出荷することが前提となる。11月の適正出荷量を安定供給することが大切で、出荷団体が連携協調して計画販売を進め、売り場に滞荷させないよう需給バランスを考えた出荷調整が必要だ。

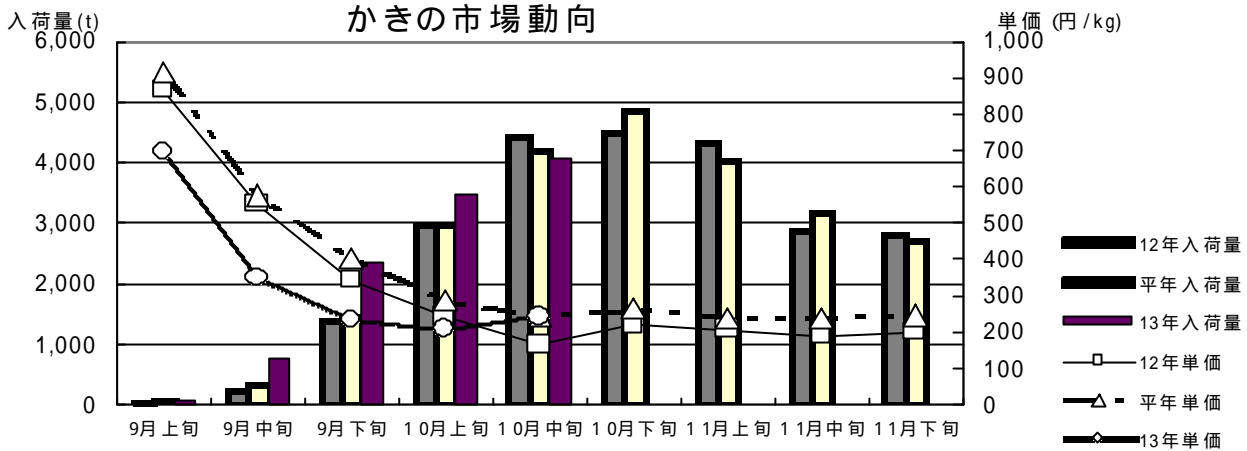
5kg16玉2,000円、18玉1,700円、20玉1,500円程度が価格設定の目安とされる。11月を迎えると秋果実商戦本番に入るが、試食販売で味を売り込む一方、食べ頃選果を徹底し、ラ・フランスで商戦を勝ち抜きたい。

主な生産県の入荷見込み(11月)				作柄概況
県名	前年 入荷量 (t)	前年シェア (%)	前年比入荷 見込 (%)	
山形県	214	26.4%	100%	収穫期は前年より7日程度早めで10月上旬から実施されピークは12日頃で20日頃終了した。肥大は、平年並~やや小玉傾向。品質は糖度が高く良好。10月上旬の強風により一部で落下。収量はやや少ない。

かき

(1) 10月の販売状況

上旬	入荷量： 3,476 t (前年比 116)	価格： 207円 / kg (前年比 86)
中旬	入荷量： 4,059 t (前年比 91)	価格： 242円 / kg (前年比 148)



10月は和歌山産を中心に入荷。本年は気温低下が早まった関係で刀根早生は前年より1週間程度早く、10月前半に終盤となった。月後半は平核無主体の入荷となった。全体的に入荷は前進気味で、入荷量が多かった前年並であるが、天候に恵まれたことから食味が良好で、中旬以降価格は盛り返し、kg当たり200円台と前年を10～20%上回った。

販売環境は大苦戦した前年同様に厳しいが、試食宣伝、健康効果のアピールに力を入れ、kg当たり200円台の維持に熱が入った。

東京都中央卸売市場扱い。

品目はかき類を集計したもの。

平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。

(2) 11月の見通し

食味よし 安定供給固定客を！

入荷量
3,935 t
前年比 100%
平年比 106%

価格
210円 / kg
前年比 111%
平年比 98%

旬別相場予想推移
上旬 →
中旬 →
下旬 →

品目：かき類

11月は和歌山、新潟産を中心に、本県と奈良産等各産地が競合する。

本年は、全体の3割以上を占める和歌山産が前進出荷のため少なめとなる一方、やはり3割台を占める新潟産「おけさがき」が例年より3～4日前進気味で10月末から11月上旬が最盛期。「おけさがき」は前年の1～2割増の入荷が見込まれることから、市場全体では前年並の入荷量と予想される。

糖度が乗り、食味が良い分前年の1割高のkg当たり200円台が期待される。

なお、昨年11月の産地別販売価格は、新潟250円/kg、和歌山173円、奈良160円、山形149円となっている。濃密な出荷情報を取引先につなぎ、継続的な安定供給で固定客をつかみたい。

主な生産県の入荷見込み(11月)				作柄概況
県名	前年入荷量(t)	前年シェア(%)	前年比入荷見込(%)	
和歌山県	1,294	32.9%	90%	本年は果肉先行型となって、昨年より1週間ほど早まり10月下旬が最盛期となった。11月は例年より早めに切り上がり、前半ではほぼ終了。量的にも前年を約1割下回る見込み。
新潟県	1,226	31.2%	110%	刀根早生と平核無の系統共販ものを「おけさがき」とネーミング。刀根早生3割、平核無7割の比率で出荷されている。今後は平核無は10月末から11月上旬が最盛期。他産地と異なり昨年が若干不足気味となったため、前年より10%増の出荷となりそう。